平成２６年度 第２回 宗像市次世代育成支援対策審議会

議事録（要点筆記）

期　日：平成２６年７月１５日（火）
時　間：午後７時００分～午後９時
会　場：宗像市役所　北館２階２０２会議室

審議会委員					
横山　正幸	○	石山　さゆり	○	小方　信二	○
衛藤　蔦子	○	中里　留美子	○	中山　秀樹	○
吉永　敦子	○	高杉　洋史	○	薄　俊哉	○
釜瀬　計	○	今西　美樹	○	高畑　真希子	○

事務局				
柴田　祐治	中野　万由美	久保　謙司	秦　康典	早川　靖彦
田中　典子	瀧口　啓太郎	賀耒　悦雄		

配布資料
・宗像市子ども基本条例　大人向けパンフレット
・幼稚園状況
・スケジュール表

１　会長挨拶
横山会長
２　前回議事録の確認
⇒承認
３　報告事項
～審議会における審議事項の確認
（事務局）　資料で説明
・今後の審議会は、新しい子ども・子育て制度における地方版子ども・子育て会議としての役割を持つこととなる。
・事務局の説明で概要をある程度つかむことができた。
・回数は前回に比べて多いようだ。
⇒１２月の答申までに８回、その後パブリック・コメントを行って、その報告のための審議会を１～２回予定している。
４　協議事項
（１）子ども・子育て支援の新制度について
（事務局）　資料で説明
（事務局）　新制度について、委員から出された質問に対する回答
・保育所や幼稚園の現場から見て新制度については、どう感じていますか。
・保育所と認定こども園との相違点をいろいろ検討している。待機児童が出た場合、どこが受けるのかなど。今の保育所から認定こども園になると、運営費が現在と比べて増額になるようだ。保育所の運営としては認定子ども園への移行を促すような制度と思うが、教育・保育の平等性を謳っているので、新制度では、状況がわかりづらいと感じている。

・幼稚園の状況についていうと、（認定こども園化には）施設整備や教員研修などの準備が必要なことから、すぐに認定こども園へ移行できない園が多いと思う。新制度に対応する組織や体制をかえるには時間を多く要すると考える。
・このような状況を踏まえて計画づくりをしてほしい。また、計画策定の段階でいろいろな課題が出てくると思われるので、その中で対応していきたい。
⇒今後は、このように新制度の質問に対して審議会の中で回答することは、時間の制約もあり難しいが、新制度のことで不明な点があれば随時個別に事務局に尋ねてほしい。

（２）（仮称）宗像市子ども・子育て支援事業計画について
～計画の名称について
承認（「宗像市子ども・子育て支援事業計画」）

～計画の策定について
（事務局）　資料により説明
・国の基準による調査と宗像市ではその他にもアンケート調査を実施した。
⇒事務局で案を作成し、審議会で審議いただき、最終的には議会に報告する。
～計画の骨子案について
（事務局）　資料により説明
・この骨子案では、かなり固まりすぎているように思われる。これでは、何のため審議会かわからなくなり、審議会のあり方が問われるのではないか。審議会では、あくまでも案として出して審議するべきはないか。
⇒これは、案であり、計画のイメージとしてとらえていただきたい。
・計画のイメージという事務局の考えだが、各委員に自由に意見を出していただきたいと思い、意見した。

～基本理念・基本方針について
（事務局）内部で調整中である。宗像市子ども基本条例の理念を計画に反映させる。
・基本理念、基本方針ができてから計画づくりに入る。子ども基本条例を押さえ計画づくりを行う。宗像市の第２次総合計画ができると、柱ができる。当審議会でこの計画について、論議を進める必要である。
・保護者の認知度は、どの程度か把握しているか？
・知る必要はあるが、まだわからないのではないか。
⇒個別の関心は持っているが、新制度についての認知はまだないのではないかと思う。
・福岡市がパンフレットを作成している。
⇒本市では、ホームページで紹介しているが、今後検討したい。

（３）その他

・審議会の開始時間について

（会長、副会長）託児している委員がおられ、子どものためにもできるだけ早い時間で会議を終わらせたいので、会議の開始時間を早くしたい。毎回ということは難しいと思うが、次回はどうか。

（委員で調整後）

次回は、平成２６年７月３０日（水）午後６時３０分から審議会を開始する。